

「自己限定しない」

いささか、旧聞ですが、我がアイクス税理士法人は、20年7月税理士開業満38年を迎えました。

同時に、私は7月21日、6回目の年男で満72才となりました。

毎年私の誕生日には、全社員を招待し会長会食会を持つことになっています。

実は、今年、この席で社員の一人が、当グループの経営理念についてふれ、「38年経った今も、決して劣化していませんね、それどころか、今正に現在の世相と我社の目標とする姿にピッタリではないでしょうか」と評価し、「私は事あるごとに、この経営理念に照らし合せて最終判断することにしていきます、とても立派な経営理念を創って頂きありがとうございます」と挨拶してくれたのです。

私はとても嬉しく感激しました。

経営理念とは、決して、創業時のものをいつまでも、ただ引継げば良いと言うものではなく、時代の変化と会社の在り方によって、より昇華すべきであります。私も決してこだわってはいません。

しかし今、客観的にみて、今の経営理念は、我がグループにとってピッタリだと思っています。

我がアイクスグループの経営理念は、

1. 最高に信頼される相談相手となる。
 2. 自己限定しない。
 3. 社会正義に貢献する。
- であります。

そんなこともあって、前回は、「最高に信頼される相談相手となる」についてお話させて頂いた次第です。

そこで、今回は二番目の「自己限定しない」についてお話させていただきます。

「自己限定」とは、もう30年以上も前、私がTKCに入会した頃、当時、会長であった飯塚毅先生から教わったものです。

それは、人間は本来限りない力を有しているのですが、生れ落ちて社会生活をしていく中で、肉体や血管に脂肪やコレステロールが付着するように精神的にもいろんな経験を積む中で知らず識らずに発想法の癖が出来上がりそれが固まってしまいます。

これを仏教上は薫習（くんじゅう）というのだそうですが、これが、自ら自己の力を限定してしまうと言うのです。

事に対峙した時、私には無理、私には出来ないと、自らの力を過小評価して逃避することです。

「火事場の馬鹿力」の例に見られるように、人間は潜在的に限りない力を有しているのですが、残念ながらその力を発揮する機会を自ら摘み取っている方が多いようです。

上場企業創業者や商品開発担当者などで成功した人は必ず真に苦しくて厳しい体験を持っておられます。

しかし、その時の最終判断は「自分が持てる無限の可能性を信じて全力を尽す」（カシオ計算機、伊部菊雄 モジュール開発部副主管 日経エデュケーションチャレンジより）に代表されます。

そして、その結果は「怖くても谷を跳べ、必ず力は備わる」（イー・モバイル(株)代表取締役会長 千本倅生、朝日求人 仕事力より)であります。

徐々に跳ぶ幅を縮めて、最後は跳ばなくなってしまう者と、ステップを踏んで幅を広げていく者には、「原因と結果の法則」に従って人間の幸せ度も大きく変わってきます。

私事で恐縮ですが、私は3～40代の血気盛んな頃、事に対峙した時、私の口癖は、家庭でも仕事上でも「それは簡単だーヨ」でした。

ではその解決方法は？と聞かれると「それは出来る方法を考えればよい」でした。

当時は、今申し上げた「自己限定しない」などという崇高な理念に支えられたものではありませんでしたが、少なくとも事に対して逃げることはしなかった気が致します。

平成20年9月2日

アイクス税理士法人

代表社員 飯田 昭夫